

# 絶滅危惧植物個体群の農村環境変化の影響評価 —キキョウを対象として—

吉田 聡子(横浜国立大学)・松田 裕之(横浜国立大学)

里山里地では生物多様性減少が危惧され、その要因として、農業や農村の変化があげられている。これらの変化の中で何が生物に影響を及ぼしているかを明らかにするため、広島県北部、中山間農村地域で、キキョウを指標種として選定し研究を行った。

キキョウの在・不在を従属変数とし、農業・農村環境変化を説明する変数として、耕地率・耕地面積変化率・耕作放棄率・区画整理面積率・農業従事高齢者率の5つを候補とし、一般化線形モデルにより変数選択(AIC基準)を行い、要因をよく説明する変数の組み合わせをもとめた。結果、『1970年からの耕地面積の変化が少なく、区画整理面積が少ない集落にキキョウが残存する確率が高い』ことが示唆された。